

カニジル6

FREE 2021.01

未知なる大海――

「**脳**」と「**心**」の世界

フオトルポルタージュ

大山診療所の朴先生

カニジルラジオ、

始めました！



とり大医師の

秘「**仕事術**」

鳥大の人々

野坂加苗
病理診断科 講師

●病院長対談

「たすくのタスク」大崎 洋 (吉本興業会長)

とりだい病院の病理医は 盛岡生まれの「虫めづる姫君」

野坂加苗 病理診断科 講師

「病理医」とは一般に馴染みのない職業であるかもしれない。しかし、がんの確定診断は病理診断医にしかできない。病院の重要な一部門である。研究である「基礎医学」と患者を診る「臨床」の橋渡し、と称されることもある。普段、表に出ない彼ら、彼女らは何を考え、何を悩んでいるのか。そこには外からうかがい知れない物語がある――。



写真・中村 治

図鑑をはじめとした本を読み耽っていた少女時代、野坂加苗がもっとも気に入ったのは『堤中納言物語』の『虫めづる姫君』だった。

堤中納言物語は平安時代後期から鎌倉時代の物語が集められた短編集である。編者は不明、虫めづる姫君の作者、書かれた時期も分かっていない。

主人公は按察使の大納言の娘。何不由なく育てられた「姫」の趣味は、昆虫観察だった。昆虫を採取し、脱皮したり羽化したりする様を観察するのだ。中でも気に入っていたのは、毛虫だった。毛虫を手にとらせてじっと見つめる様を、姫に仕える侍女たちは気味悪がった。そこで姫は虫をこわがらない身分の低い男たちを呼び寄せて一緒に遊ぶようになった。また彼女は、涼やかな外見にも関わらず、化粧などで身を飾ることに興味がない。年頃の娘がそれでは外聞が良くないと両親が苦言を呈すと、彼女はこう返す。「世間で、どういわれようと、あたしは気にしない。すべての物事の本当のすがたを、深く追いつめて、どうなるのか、どうなっているのか、しっかり見なくちゃ。それでこそ因果関係もわかるし、意義があるんだから」（光文社古典新訳文庫版）

野坂もまた昆虫が好きで、友だちは男の子ばかりだった。

小学生時代のことだ。野坂は岩手県南部に住む祖母を訪ねた。庭にいた蜘蛛を

病気にかからない、あるいは怪我をしないという人はいません。どんな人にとって医療は生活に切り離せない。しかし、敬遠したり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。そこで、医療の世界を「いかに知ってもらおうか」↓「いかに知る」↓「カニジル」となりました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名産品、〆蟹のだし（味噌）汁にも掛けています。蟹汁のように、皆さまに愛される存在でありたいという思いを込めました。

「カニジル」が第一にこだわるのは「ファクト」です。

医療に関して、不正確な情報が世の中には溢れています。短く、分かりやすい言葉は人々の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はその簡単ではありません。分かりやすくするため、大切なものを多くそぎ落としています。

医療は、科学的に証明されていることとそうでないことを完全に二分できない世界です。極力、ファクト＝エビデンスを重んじていても、そのファクト自体がひっくり返ることもあり得る。大切なのは、愚直に取材し、確かな文献に当たり、真摯に考える――それが我々の姿勢です。

昨今のコロナウイルスに関する報道で「インフォデミック」という言葉を耳にした方も多いでしょう。これは情報が感染症のように拡散する状況を指します。SNSなどの発達により、我々が手にする情報は爆発的に増えました。その中から、いかに正確な情報を選び取ることができるか。生命の危機にも直結する医学では、その力が

カニジル宣言

特に必要になってきます。カニジルはそのお手伝いをしていきたいのです。

米子市出身の経済学者、宇沢弘文は著書の中で「社会的共通資本」を（一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」と定義しました。また（一人ひとりの人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、市民の基本的権利を最大限に維持するために不可欠な役割を果たすもの）とも書いています。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、この地域でもっとも人が集まる場所です。（すぐれた文化を展開）し、（人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持）する可能性を秘めているという意味で、まぎれもない「社会的共通資本」でしょう。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱える問題が凝縮されています。一方、人との温かい繋がり、自然など、都会にはない豊かさがある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持していくか――。先んじて未来の問題を解決できる場所なのです。

新型コロナウイルスは日本社会の変化を促すことになりました。リモートワークが進めば、住む場所を選びません。都市と別の視点を持つことが、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代のニューノーマルとなるかもしれません。

ファクト、医療、地域、この三つを柱として、カニジルは未来を見据えます。

C O N T E N T S

03	鳥大の人々――病理診断科 野坂加苗 最良の地域医療とは何か――
06	大山診療所の「朴先生」 未知なる大海――
09	「脳」と「心」の世界 「フット活用」「仕事量の可視化」 「モチベーション・コントロール」ほか
14	とり大医師の「秘」「仕事術」 たすくのタスク――病院長対談
16	吉本興業会長 大崎 洋
20	大学病院の謎 「内科や外科に第一、第二とついているのはなぜ？」
21	とり大「人生を変えた一冊」 放射線部 技師 坂本洋輔
21	カニ箱――カニジル「意見箱」
22	Totori Breath 『言葉の力』――カニジラジオ、始めました。
23	飛鳥の森――編集後記
24	トリビート フォトグラファー 中村 治が切り取る、 とりだい病院の日常

Kanijiru vol.6 Staff

スーパーバイザー
結城豊弘

編集長
田崎健太

編集
三宅 玲子
中原 由依子
大川真紀
西海美香

写真
中村 治

表紙デザイン
三村 漢

ページデザイン
矢倉 麻祐子

編集管理
吉田慎吾

見て、野坂は「あつ、でつかくて格好いい蜘蛛がいる」と大きな声を出した。ジョロウグモは野坂が住んでいた岩手県中部の盛岡市には棲息していなかったのだ。「図鑑にジョロウグモの（出す）糸は金色って書いてあったんです。金色の巣見たーいって思ってたんです。わあ、これがジョロウグモの巣かって、感動したんです。確かに巣は金色に見えた。それで家に連れて帰って庭に放したんです。そうしたら、卵を持っていたみたいで、大繁殖しちゃった。近所がジョロウグモだらけになってしまった」

それですぐ親に怒られました、とハハと声を上げて笑った。ジョロウグモは盛岡の生態系と合わなかったのだから、数年で姿を消したという。

勉強は得意だった。一帯で一番の進学校である盛岡第一高校から、東北大学薬学部に進んだ。

「漠然と博士、研究者になりたいって考えていたんです。でも、どういう研究をしているのか分からなかった。生物も化学も物理も勉強できるから、とりあえず薬学部に入ってみたんです。勉強しているうちに自分が興味を持っているのは生物系、基礎医学だなと気がついたんです。そこで、生物系の本場である医学部に行こうと思いました」

この頃、他学部から医学部への転部は稀だった。薬学部を卒業、国家試験に合格した後、1年間浪人生活を送り、山形

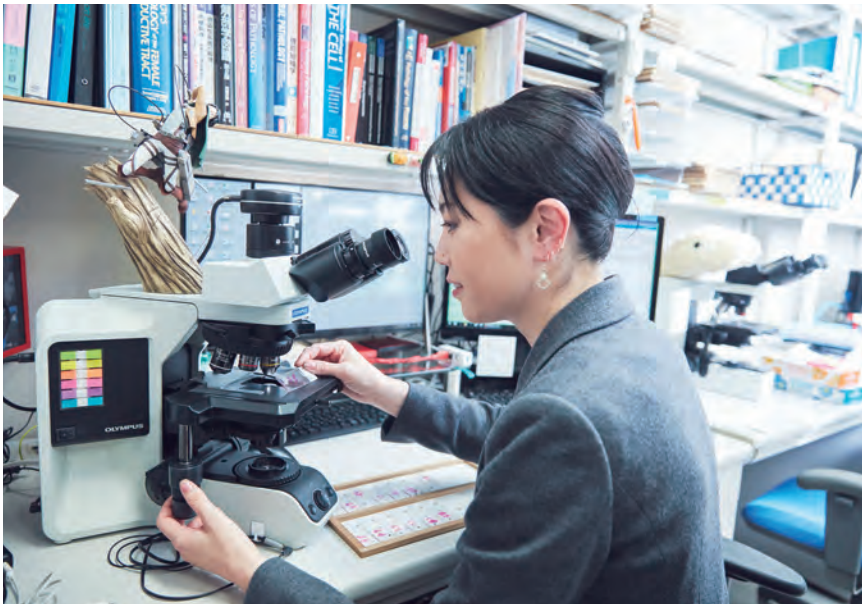
専門医の中でも判断が割れることがあるのだという。自分の中の基準を動かさないようにという恩師の教えを野坂は今も守っている。

ただし、思索、検討の時間が与えられない場合もある。手術中、予測していなかった所見を発見した場合、あるいは切除範囲を決定するための術中迅速検査だ。「判定によって手術のやり方が変わってしまうこともあります。乳がんならば、乳腺に一番近いリンパ節を採取します。そこにがんがあれば、それで終わりなんですけれど、がんがあった場合、脇の下のリンパ節をすべて取らなくてはならない。そうすると腕がリンパ浮腫になって皮が厚くなって、女性としては悲しい状態になってしまう」

同じ女性だからこそ、術後の苦しみが分かる。とはいえ、がんが転移していた場合、切除しなければ、命に関わる。病理医として働き始めてしばらくは、その責任の重さで潰されそうになった。「最初の頃は、リンパ節（にがんの）転移はありません、の一言を電話するだけで、緊張してたらだら汗をかいていました。怖かったです」

病理医に向いているのは「オタクっ気」のある人

術中迅速検査では、組織の一部やリンパ節が「エアースhower」と呼ばれる



「机の周りに飾られている、好きな漫画のフィギュアたちが仕事で、最大の癒しである」

大学医学部に合格した。医学部では基礎医学——人体の構造、機能についての学問に夢中になった。

「人の身体ってこんな風になっているのかって紐解いていくのが楽しかった。良くてきているんだなという感動することばかりでした。研究の方に行くつもりだったんですが、当時の病理学の教授が、病理とは基礎（医学）と（患者を診察する）臨床（医学）の橋渡しをする学問なんだよという話をされたんです。折角、医学部に入ったのに、臨床的なものと繋がりがなくなるのもつまらないなと

カプセルで病理診療科に送られる。まず、技師が凍結して切片化。標本を作成。野坂は顕微鏡で標本を覗き、手術室に電話で結果を伝える。野坂の声は手術室のスピーカーから流れるようになっていた。術中迅速検査では速さが要求される。ただ、時に立ち止まる勇氣も必要だ。

「時間との勝負でもあるんですけれど、やっぱり大切なのは正確であること。よく分からないなというときは、もう一度、標本を作り直してもらうこともあります。答えを返す時間が20分延びたとしても、正確な答えを出すべきなので。そのときに電話の向こう側にいる（執刀している）先生と心が知れていると、今、こういう状態で迷っている、ということをしちんと伝えやすい」

人間の身体は完全に解明されていない。そのためどうしても、グレイゾーンが出て来る。そのグレイゾーンを切り抜けるのは、最終的に人と人の信頼関係なのだと野坂は考えている。「一番嬉しいのは、臨床の先生の役に立ってたとき。確定（診断）がついて助かったとおっしゃっていただけたときは、やっぱり嬉しいです」

病理科にやってくる医師は、人とのコミュニケーションが苦手な傾向があるという。後輩たちには、臨床の医師たちと普段からコミュニケーションを取るように、論している。病理医に向いているのはどんな人です

思って、病理に進むことにしました」

病理学とは、疾病の形態と機能などを総合的に研究する学問を指す。そして大学6年生で結婚していた野坂は、卒業後の研修先に夫の地元である、とりだい病院を選んだ。2006年4月のことだった。そこから米子に居つづけている。

「鳥大の良さ？ 出身大学での差別がないことですね。（他大学出身は）外様〴〵扱われるなんて聞いたことがあります」鳥大では全くないです」

診断によって手術のやり方が変わってしまう「術中迅速検査」

野坂の専門は病理診断科である。患者の身体から採取した組織、細胞を薄く削ったガラス標本を顕微鏡で観察して病名を確定させる。確定診断とも呼ばれる。

「がんの確定診断は病理（診断科）しかできません。九割以上、がんかそうではないかの判断は簡単です。形が整っていれば大丈夫だなと。がんというのは、一言で言うくと細胞、組織が〴〵異型〴〵なんで

か、という質問を向けてみた。野坂は思案顔になった後、「オタクっ気がある人かな」と笑った後、こう続けた。

「やっぱりすごく勉強が好きだな人じゃないとできないです。医学は日々進化していますし、範囲が広いです。うちの病院で言えば、日常診療では救急科と精神科以外、すべての科と付き合いがあります。病理医にも得意分野があって、それぞれカバーしているんですが、それでも自分が詳しくない分野だったり、分からない疾患がポーンと出て来ることがある。そのときは立ち戻って基礎から調べないといけない。教科書を読まないという日はないです」

突発的な患者に対応しなければならぬ臨床医と比較すると病理の医師は生活のペースを保ちやすい。そのためか、女性医師が多い。「患者さんがいないので勤務時間もフレックスにしやすいんです。そういう意味ではちっちゃいお子さんを抱えたお母さんでも働きやすいかなって。今、若手は半分ぐらい女性ですね」

患者と接することがないため、机の回りは、彼女の好きな世界でまとめられていく。目につくのは、〴〵オタク〴〵の彼女が愛する『ファイブスター物語』の大きなフィギュアだ。ファイブスター物語は、累計850万部を超える永野護のコミック作品である。野坂は登場人物の絵を描いて、編集部投稿邮箱ほどの愛好者だ。

す。細胞一つひとつの形もおかしいし、並び方もぐちゃぐちゃになっている。ぐちゃっとなっている場合は、倍率を上げて（見て）みる」

標本は青色、あるいはピンク色の染料で色づけされており、組織の形が見えやすくなっている。野坂たちが普段使っているのは、400倍拡大の顕微鏡である。100倍ほどの拡大で、判断がつくものがほとんどだ。「ぐちゃっとな」なっている場合、倍率を400倍に上げる。

「ちよっただけ変でも、がんになりようがないというのもある。異型がやや強めに出ている場合は、今はがんではないですけれど、念のためフォローアップ（経過観察）してくださいというコメントを書きます」

さつと顕微鏡を覗き、レポートを書く場合がほとんどだが、一時間以上、腕組みを続けることもある。

「大学病院ですから、難しい症例が集まってきます。見た事のない細胞の形、見たことのない並びをしている、みたいな。見慣れないものが出たら、すぐに教科書を引っ張ってきて調べる。それでも分からないことがある。周囲の人に意見を求めたり、（標本の）量が少ないので取り直してもらうこともあります。それでも分からない場合にはそれぞれの信頼できる専門家に送るしかない」

ごく一部に限って、ではあるが、がんかそうでないかの線引きには、熟練した

「それまでは読書家だったのに、仕事で文字ばかり読んでいるせいか、本が読めなくなっちゃった。嫌になっちゃったんですね。漫画は子どものときに禁止されていたので、いい年になって爆発しちゃった」

医者になって一番良かったのは漫画が大人買いできることかな、と笑って付け加えた。

昆虫好きなのは変わっていない。「この間、メタリックな綺麗な虫を見つけたんです。なんだろうって名前を調べるとウバタマムシという虫でした」

すごいブラウンメタリックなんですよと嬉しそうに言った。

「病院の近くで私がうずくまっているときは、たぶん虫を見てます」

盛岡の昆虫好きだった〴〵姫〴〵は成長して、2人の子どもを持つ、とりだい病院の病理医となった。そして今も昆虫と勉強が好き、である。

文・田崎健太
1968年3月13日京都市生まれ。ノンフィクション作家。早稲田大学法学部卒業後、小学館に入社。『週刊ポスト』編集部などを経て独立。著書に『偶然完全 勝新太郎伝』『球童伊良部秀雄伝（ミズノスポーツライター賞優秀賞）』『電通とFIFA』『真説・長州力』『真説佐山サトル』『全身芸人』『ドラゴン』など。5月末に新刊『スポーツアイデンティティ』（太田出版）が発売。小学校3年生から年間鳥取市に在住。2019年に『カニジル』編集長就任。毎週土曜日昼放送の『カニジラジオ』（BS S山陰放送）メインパーソナリティ。

野坂加苗

医学博士。東北大学薬学部卒業後、山形大学医学部医学科に入学。2006年卒業。同年より鳥取大学医学部附属病院で初期研修を経て、2008年に当院に入職。岩手県出身。

最良の地域医療とは何か――

大山診療所の「朴^{パク}先生」

地域に赴いて患者を診ることが地域医療だと思っていたと朴大^{パク}臭^テは言う。しかし、実際はそれだけではない。患者や家族、そして地域が抱える問題や思いを受け止め、コミュニティを支えることだった。あなたのために何ができるだろうか……。大学病院の診療とは違う、医師の役割とは。

写真／文 中村 治



バツ 大 昊

静岡県浜松市生まれ。鳥取大学医学部医学科卒業。沖縄県立中部病院、八重山病院附属波照間診療所所長などを経て、2019年より大山町国民健康保険大山診療所所長。専門は家庭医療、プライマリ・ケア。

ぼくがカニジルの撮影で山陰に入るときは雨が多い。この日も、近づいてきた台風の関係で、ぼつぼつ細かい雨が落ちていた。鳥取県のシンボルとも言える大山の中腹にある大山町は、風光明媚な場所である。見晴らしのいい場所からは日本海が見渡せ、山の傾斜に沿って美しい水田が広がり、雨の重みでさらにこうべを垂れた稲穂が、一面を黄金色に染めていた。そのとき、ぼくはここで朴大昊先生を撮影したいと思った。それが前ページの写真だ。協力してくださったのは、先生の息者である若林さん。御年96歳と聞いて驚いた。元ラグビー選手でがっちりとした体格の朴先生に支えられながら現れた若林さんの笑顔からは、高齢者の独居という重い言葉の響きは感じられなかった。

大山町の住民は約16000人、その4割が65歳以上の高齢者だ。大山診療所はとりだいて病院のある米子市まで、車で30分ほどの距離。それほど遠い距離ではない。しかし、車を運転できたとしても、ほとんどの高齢者は交通量の多い国道9号線に入ることができないのだという。高齢者にとっては、米子にはるか彼方にあり、大山町が生活のすべてなのだ。一帯の医療を担う朴

先生の責任は重い。

「家族がいらないからとか、田舎だから家で死ねない、というのは違うんじゃないかと思ってるんです」

そのためには、どうコミュニティを維持していくのかを問い続ける必要がある、と朴先生は力を込める。地域医療を担う医師は、まず総合診療医として、どんな病気にも対応できる技術が必要とされる。それだけではなく、地域を見つめる力が試される。つまり、病状や疾患だけでなく、その人の家族や仕事、人生を見て、時に患者とともに大切な決断を行なう必要に迫られる。そして、どこで、どう最期を迎えるのか。医師として、良き隣人として、ともに人生の最後の場面に向き合うのである。

一昨年に赴任した朴先生の自宅は、大山診療所から歩いて数分のところにある。空き家だった日本家屋での一人暮らしだ。町内に住んでいるので、患者に不測の事態があった場合もすぐに駆けつけられる。朝起きると玄関に野菜や果物が置いてあったりするのだそう。僕は野菜をつくれなけれど、病気を診ることはできるんです、と朴先生はうれしそうに笑った。

写真家 中村治



日々の診療とともに、週に数回往診に出かける。この日は自宅で末期がんの治療を続ける高橋さんを訪れた。入院でなく、自宅で治療を続けたいという希望を、出来る限り叶えてあげたい、と朴先生は言う。

未知なる大海――

脳と心の世界

文・三宅玲子
写真・中村治

同居する親が急に怒りっぽくなった――。どこ家庭でもあるごく日常の出来事だ。見る限り、父親はほかに体調も生活も何ら変わりがない。親父も年をとったなあ、などとやり過ごしたとしても不思議ではない。ところが、こうした性格の変化に脳内の異変が関わっている場合がある。また、新型コロナウイルスによって、心の病氣――うつ病が増えたという報道もある。このうつ病は脳と関係があるという。身近でありながら知らない、「脳」と「心」――。

脳機能を温存するための 「覚醒下手術」

手術灯が医師の手元を照らしている。全身をシートで包まれた患者が手術台に横たわる。全身麻酔により既に意識はない。2人の医師が頭蓋骨を開くために穴を開ける作業が始まった。

ドリル音が室内に響く。

手術台の脇には30インチほどのモニターが設置されている。カメラで撮影した脳内のある部位を映し出すのだ。

これから覚醒下手術が行なわれる。覚醒下手術とは、手術中に患者を起こして意識がある状態で行なう特殊な手術だ。

患者は2時間後に覚醒する予定だという。全部で8時間ほどかかる大手術だ。

全身麻酔をした患者を手術中にわざわざ起こすとは、一体どういうことなのだろう。

私たちは前日に脳神経外科の黒崎雅道教授に手術のあらましを聞いていた。黒崎教授によると、脳腫瘍は、腫瘍が脳のどの部分にあるかによって、術後に起こり得る合併症が異なる。例えば、手足を動かし言葉を喋る機能を司る「前頭葉」の悪性腫瘍を取る際に前頭葉の組織も一部取り除くことになる。そこで、手術の途中段階で患者が意識を取り戻した状態にし、発語や手足の動きに影響が出ていないかどうかを確かめながら慎重に除去を進めるのだ。

覚醒下手術は命を救うだけでなく、患者の社会生活を見据えた機能温存を最大限に図る、比較的新しい手術手法だ。1995年、当時鳥取大学医学部脳神経外科の堀智勝教授が関連施設で日本で初めて施行。現在は全国約50の病院で行なわれているという。

脳を扱う難しさの一つは、異変の原因がつかみづらいところだ。そう黒崎教授は指摘する。

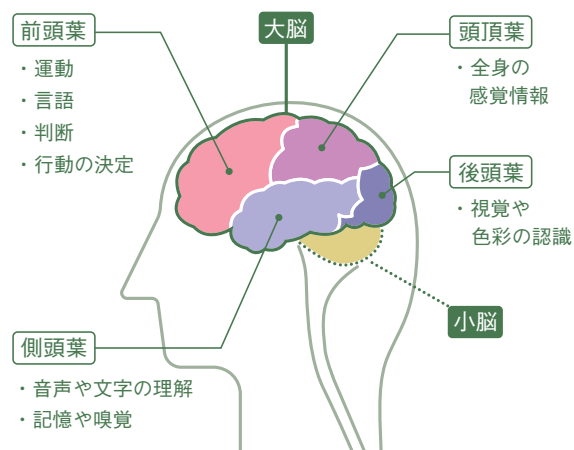
「脳腫瘍は、腫瘍ができる場所によって、性格の変化やそれまでになかった言動が見られるようになるなどの異変が起こります。最初は脳腫瘍と分からずに精神科を受診された患者さんが、MRI（核磁気共鳴画像法）を撮ったところ腫瘍が見つかって、我々脳神経外科に紹介されることは珍しくありません」

脳に腫瘍ができることによって、怒りっぽくなる、物忘れがひどくなるなど、性格に影響することがある。そのため、短絡的に老いと結びつけるのは、ときとして脳の異変を見逃す危うさにつながるという。

そもそも脳とは何か――。

医学的に定義すれば、頭蓋骨の中にある神経細胞の集合体である。

人間の脳は脊椎動物の進化の初期段階では、単に神経細胞が集まったコブのようなものに過ぎなかった。進化の過程で大脳、間脳、中脳、小脳、延髄、脊髄から構成される複雑な構造を成し、高度な



精神活動を司るようになった。感情、思考、生命維持その他、神経活動の中心の、指導的な役割を担っているのだ。

そして、脳には人体の他の部位とは決定的な違いがある。

心臓、肺、腎臓などの臓器はその役割がほぼひとつ。一方、脳はさまざまな部位から成り立っており、それぞれ異なる働きをしていることだ。

脳内に起きた異常から引き起こされる病気は幅広く複雑だ。認知症、パーキンソン病、てんかんといった内科的なアプローチを主とする病気から、脳腫瘍をはじめとする外科手術を含めた治療を行なうものまである。内科治療が中心とされるパーキンソン病やてんかんが、病状や条件によっては脳外科治療で回復することもある。

4科の連携で脳の病気に迫る

脳に関わる疾患を巡って複数の診療科が連携して関わる仕組みがとりだいた病院にある。「脳とこころの医療センター」だ。前述の脳神経外科をはじめ、脳神経内科、脳神経小児科、そして精神科の4診療科からなる。

このうち、脳神経内科では、神経難病と呼ばれるパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などから脳梗塞、てんかん、しびれ、認知症などまで、神経に関わる幅広い疾患を診ている。

脳神経内科と脳神経外科の区別は、外科手術が可能かどうかで分かれる。また、脳神経の異常がない心の問題を扱うのが精神科だ。しかし、最近では認知症など両方にまたがるようになってきているものもある。

脳神経内科から見ても、脳神経外科や精神科との連携体制は、患者の治療にどのようにならせるのだろうか。脳神経内科の花島律子教授は「てんかん」を例にとる。

てんかん――突然意識を失って倒れ、手足の痙攣などを起こす疾患は、遺伝的素質の他、脳の損傷によっても起きる。てんかんは、「脳神経内科」に区分され、抗てんかん薬の服用、発作を抑制する薬物療法が主流とされている。

「例えば、初見ではてんかんが疑われた患者さんが、原因を調べていくと脳腫瘍

精神科を受診された患者さんが、MRIを撮ったところ腫瘍が見つかった。我々脳神経外科に紹介されることは珍しくありません

が明らかになり、脳神経外科で手術するというケースがあります。他方、脳神経内科と精神科は違いが分かりづらいのですが、診察のはじめに行なうMRIなどの検査結果が、どちらの診療科で治療するか分岐点になります」

症状からだけでは見つけ出しにくい病気が検査によって明らかになることがある。幻覚や妄想など精神科の疾患が疑われる患者が、検査をしてみると脳炎だったということもある。また、認知症の根本は記憶をはじめ、正常な行動に必要な脳のシステムが壊れることであるため、脳神経内科が診療を行なう。ただ、幻覚や怒りなど感情面の変調が強く現れる場合は精神科と連携する。

脳疾患（脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など）や事故による頭部外傷による脳の損傷が原因で記憶障害や失語、暴力的になるなどの高次脳機能障害が起こることがある。日常生活や対人関係に支障をきたすため、心理面に大きな負担が生じることも多い。

前出の黒崎教授は、喜怒哀楽といった感情を含めた心のありようと脳のつながりは、まだよく分かっていないと言う。「心は身体のだこにあるのかさえ、まだ分かっていません。でも、脳と心が近い関係にあるのは確かです。術後の患者さんの高次脳機能障害については精神科と連携して治療にあたります」

脳の機能があまりにも分からなかった

時代を経て、20世紀はさまざまな研究により謎がかなり解明された。医学界では20世紀を「脳の世紀」と呼び、「心は脳に宿るのか」を議論した。MRIが登場し、遺伝子検査の技術が進化し、現在では心も脳の機能と深く関係しているという概念が一般的になっている。

それでも

脳と心は分らない

とりだい病院精神科の兼子幸一教授は近世のフランスの哲学者・デカルトを例に挙げてこう話した。

「デカルトは心と体は別物と考えていました。いわゆる心身二元論です。脳の働きが心につながるという考え方では決してありませんでした。近年は生物学が進歩し、心も脳を調べれば全部分かるんじゃないかという楽観論も登場しましたが、心の働きはそう単純に脳の働きに還元できるものでもなさそうだという見解もあります。心と脳の働きはまだまだギャップがあると考える方が素直だと思います」

人間は意識を失ったとき心の基盤としての脳は動いていない。臨床医学的には、そのとき心はないと考える。逆に言えば、心が動くときは、脳が働いているということだ。脳の各部位が、喜び、怒り、悲しみなどさまざまな感情を司るが、だからといって心は脳の働きを足し合わせた

「そもそも、脳が正常というのはどういう状態なのか。脳のある部位が働きすぎても働かなすぎても偏りがあるのとらえることはできません」

ただし、偏りには特別な価値観を入れずにみてほしいと、兼子教授は念を押した。「偏りがあるというのはいいいことでも悪いことでもありません。個々の特徴に過ぎないものです。脳の働きに偏りがあるがために特異な才能でブ

レイクスルーを産み出せる人もいれば、それがなくて平凡な幸せを生きられる人もいます。幸福かどうかの価値観と脳の働きを対応させるのはまた異なる次元の話だと思いますね」

分らないことだらけの脳と心の関係の中で、はっきりしているのは「ものの見方」と「経験」が重要な役割を果たしていることだ。

「焦点を当てているところはよく見えたり認識したりできますが、そうでないところはうまく認識できない。カメラで撮るように均質均等に周りを認識するのは違います。自分の認識に自分でフィ



「“自分”という意識。心の働きを明らかにしたい」（兼子教授）



「未知なところが多い分野だからこそやりがいがある」（花鳥教授）

されている。

兼子教授はうつ病を「扁桃体が暴走した状態」と表現した。

「扁桃体が過剰に働くと、通常は扁桃体の活動をコントロールしている大脳皮質の働きが弱くなり、不安や気分の憂鬱が強くなる。そうすると仕事はもろろのこと、日常生活も難しくなります」

現在、うつ病に対しては、扁桃体の過剰な働きを抑制する新たな試みが行なわれている。

患者の扁桃体をfMRI（機能的磁気共鳴画像法）で撮影し、患者にさまざまなことを頭に思い描いてもらい、扁桃体の働きを観察するのだ。気持ちもちが穏やかなときの扁桃体の動きに近づけるように、患者本人とコミュニケーションをとりながら探っていく。

ただし――。「例えば、憂鬱な感情が生み出される、それが脳のどのような働きによって生み出されるか、まだ分かっていません。ただ、うつ病の患者さんを平均してみると、扁桃体の活動性数値が上がっているのは

ルターをかけている。どこに注意を向けるかはその場では自分では意識してないかもしれないですが、過去の経験の影響を受けているということは多分にあります。その意味では育ってきた来歴も影響してきます」（兼子教授）。

気候や風土によって育まれる気質が、心の病気に影響する。冬場に日照時間が短くなる地域だと、季節性うつにかかる人が一定の割合でいる。

「山陰地方の患者さんを見ていて思うんですけど、攻撃的になる人は少ないです。どちらかというと解離性障害になる人が多い傾向だと思います。解離性障害とは、感情と意識を切り離して辛さをやり過ごすというものです。若い世代や高校生などに多い印象です。あまり自己主張をはっきりする県民性ではないのかなと思います」

やさしく控えめな性格が山陰人らしさと言われることがある。脳と心の立場から見ても理由があったというわけだ。

考えてみれば、自分の心ほど分からないものはない。だが、脳が心の基盤となると知ると、脳に興味を持つことをきっかけに、合理的に自分の心に向き合ういとぐちを手にすることができそうだ。

脳も心もまだ全容解明に対しどれくらい近づけているのかさえ分からないほどの研究途上にあるという。

「まだまだ分からない。だから面白い」三人の教授が口を揃えた。

とりだい病院 脳とこころの医療センター

- 脳神経外科 ●脳神経小児科
- 脳神経内科 ●精神科

脳神経疾患や心の病には、診療科の分野が重なる部分あるいは複数の診療科で診るべき疾患も多あります。「脳とこころの医療センター」では、4つの診療科が隣あって診療し、互いに連携を図ることにより的確な医療を提供できる体制をとっています。



文・三宅玲子

1967年熊本県生まれ。「ひとと世の中」を中心にオンラインメディアや雑誌、新聞にて取材、執筆。近著『真夜中の陽だまり ルポ・夜間保育園』（文藝春秋/2019.09）は、福岡・中洲に近いどんぐり保育園に4年近く通って書いた。
<https://www.miyakeiko.com>

とり大医師の

「秘」仕事術



大学病院の医師は忙しい！「ご存じのとおり大学病院では診療のほかに教育、研究も行なっています。医師として専門性を高めるためのインプット、アウトプットの時間はもちろん、教授や准教授など管理職になれば医局のマネジメント、院内の多くの会議への参加、膨大な事務書類の提出も必要になってきます。これだけのタスクを同時進行で回していくのには、何か確立されたコツがあるのではないのでしょうか。2人の医師にお話を聞きました。

タスク管理は「先を見通すこと」「ノート活用」

「自分が忘れてしまったがために、あの案件明日までだったってバタバタするのが嫌なんですよ」というのは、歯科口腔外科の小谷勇教授だ。

小谷教授によると、まずはやるべき仕事＝タスクを可視化すること――。

使用するのは、見開き2ページに1週間の予定が書き込める仕様の市販のノート。小谷流は、見開きの右ページ端に、タスクを箇条書きに書き込みます。

「大事な要件、やらなければいけないこと、それが例えば3ヶ月先のものでも書いておきます。そして、すこしでも手をついたら三角の印をつけます。完全に終わったタスクは線で消してし

まいます。三角印のものはまだ完結しないので、来週のページに引き継ぎます」

つまり、タスクの進捗状況の可視化です。

「金曜日帰るときに来週のページに未完結のタスクと、新しいタスクを書いておくんです」

1週間のタイムスケジュールを決めていくと、空いている時間帯が見えてくる。

「その部分を○で囲みます。○の大きさで時間の空き具合が視覚的に分かりやすくなります。次に右端に箇条書きしてい

るタスクの中からできそうなボリュームのものを選び、空いているここでやろうって入れ込んでいくんです」

空き時間とタスクのボリュームを把握することで、効率よく時間を使うことが可能となると小谷教授の言葉。

何ヶ月も先の予定をずっと書き続けるのには、忘れないためのほかに、もうひとつの効果もあるのだそう。

「同じ案件を書き続けていくと、まだ大丈夫か、いやそろそろだ、やらなければ、という段階を踏

んで、気持ちの変化が起きてきます。頭の中にその案件がうつすら残っていくので、ふとしたときに良いアイデアが浮かぶこともあります」

日頃からタスクを意識し続けることが、柔軟な対応と新たな発想につながっていくのですね。

気分転換も仕事術のうち！

とはいえ、タスク管理しても、キャパオーバーでどんどん溜まっていく、なんてことありま

すよね……。

「やるからにはその仕事に興味を持って、好きになることが重要です。これは患者さんを診ることも、研究でも教育でも、すべて共通すると思います」

モチベーションの重要性を強調するのは、消化器内科の八島一夫准教授。

「自分が目指すゴールをはっきりと見据えること。例えばぼくは、患者さんの満足度を上げるためにはどうすればよいかをひとつのゴールにしています」

ゴールを明確化すれば、おのずと行動の方向性も決まってくるというわけですね。ふむふむ。それでも苦手なものに興味を持つのは難しいと思うのですが。

「そういうときは、自分の気持ちとしてはちょっと下向きになる仕事だけでも、全体を考えるとよい方向に進む案件だ。ならば少しずつでも手を付けてやってみる、と考えるのがコツです」

さらに、気分転換も仕事術のうち、と八島准教授はいます。「あんまりよくよくして引きずる何かを見つけてすること。例えば走ることが好きだったら

走る、テニスに興味ならテニスをする。私は音楽を聴きながら、夕方、皆生の海辺を1日1時間ぐらい歩くようにしています」

小谷教授も仕事に丁寧に向き合うこと、客観視の大切さを意識していることを教えてくれました。

「雑にしたらいつかしつぱ返しが来ると思っで、自分に言い聞かせています。そして、ものごとを決める、あるいは重要なことに取り掛かるときは、もう一人の自分を置きます。言葉を変えて言えば、自分を疑うようにしています。可能ならば時間をあけて白紙にした状態のもう一人の自分の目で見ると。そうすることで、また違う見方が見つかることもあります。もう一人の自分がやっぱり同じ方向性だったら、間違いない」

原稿を書くのが遅い、できる医師から仕事術を学んでいって、編集長にいつも言われている私ですが、まずは皆生の海岸を散歩して気分転換することから始めます。



病院長が時代のキーパーソンに突撃！

たすけのタスク

吉本興業 代表取締役会長
大崎 洋

ダウンタウンを育てた男——吉本興業の大崎洋会長がカニジルに登場。意外に思われるかもしれませんが、大崎さんは最新刊『吉本興業の約束——エンタメの未来戦略』で地方創生を熱く語っています。病院は地方創生の核という原田病院長とすっかり意気投合！

写真・中村 治

東京でずっと暮らしていると「バランス」が悪くなる

原田 大崎さんが坪田信貴さんと出された『吉本興業の約束』を読ませて頂きました。この本では〈吉本が考える地方創生〉と一章を割いて、地方創生に触れられています。そこでは、大崎さんに米子と病院を見て頂きたいと思ったんです。大崎さんが「地方」を気に掛けるようになったのはいつ頃からですか？

大崎 ぼくは大阪の堺で生まれて、なぜか吉本興業（以下吉本）に入りました。入社して6年目に会社が東京で事務所を作るっていうので、レンタカーを借りて布団とか積んで東京に行ったんです。

原田 漫才ブームの頃ですね。

大崎 ええ。それでバタバタして気がついていたら、もう何十年も経っていた。あるとき、新宿の（JR）ガード下で電車の通る音を聞いて、突然、昔を思い出したんです。こんな音、子どもの時以来、聞いていなかったなあって。なんか東京でずっと暮らしているとバランス悪いなと思うようになったんです。

原田 私は出張でしばしば東京に行きます。東京は便利で魅力的な街ですが、日本の中で特別な場所。東京を標準に考えることはできないと思います。

大崎 それで十年前の（2010年）12月頃に、東京の下町の本郷で、今の社長の岡本（昭彦）君と銭湯に行つて、サウ

ナに入っていたんですよ。するとNHKで、地方が疲弊していて若者が働く場所がないというニュースが流れていた。隣りに座っていた岡本君に「お笑いつて産業にもならへんし、沢山の雇用を創出するわけではないけれど、47都道府県に契約社員一人ずつ雇つて、地方から大阪や東京に出てきている芸人を住ませたら、おもしろいんじゃないか」って話したんです。

原田 それが「47都道府県住みますプロジェクト」となった。

大崎 （2011年）1月4日に吉本のホームページに、プロジェクトを始めます、契約社員募集しますって載せました。そうしたら、5千人ぐらい応募があったんです。その中から面接して47人採りました。4月1日、（通常採用の）新卒の子たちと一緒に入社式をしました。そうしたら、〈住みます社員〉の子たちが、胸張つて、地元のため、故郷のために頑張りたいと言ってます。その思いと熱量に驚きました。

原田 ここ米子もそうですけれど、地元にも熱い思いを持つ若者は多いです。とはいえ、吉本も民間企業。彼らを雇うことで、大きな赤字が出れば経営者としてはまずい。

大崎 （大きく頷いて）実家に住むという芸人はともかく、契約社員には給料を払わないといけない。財務（担当）に相談したら、2億2、3千万ぐらい赤字が出るっていうんです。それだったら、ま

あいいかと始めました。ところが、一年経つてみたら、百何十万なんですけれど、黒字でした。芸人の若い子たちが、昨日来て明日帰りますではなくて、本当に住んだのが大きかった。その決意が伝わったのか、地元の方々に可愛がってもらったんです。

原田 ただ、地方は東京や大阪と違って、芸人の仕事は多くないと思うのですが……。

大崎 大きいのはなくても小さいのがあるんです。町役場や村役場に、「ぼくたち吉本から来ました、ここに住んでます」って挨拶に行つて、コミュニティFMのラジオの仕事をもったり、村祭りの司会をして一日何千円の世界。それを積み重ねての黒字でした。芸人って、一人ひとりが個人事業主なので、気合いが入っている。喋りだけで、一生食っていくという連中なので、ぼくらみたいなサラリーマンよりも生きる力があるんです。

原田 文字通り、舌先三寸（笑）。

大崎 地方に行つて、住みます芸人とか住みます社員にたまに会うんです。そうしたら、老いたら子に従え、じゃないんですがその子たちに教わる人が多い。この生き残る力っていうのは、ぼくらのエンタメ（業界）、吉本の原点じゃないかなと思うようになりました。

医療もお笑いもA-にできない「役割」がある

原田 ところで、大崎さんは米子は初めてですか？

大崎 いえ、実は鳥取は父方の故郷なんです。親父は大阪の堺生まれなんです。おじいちゃんや大山の山の奥で生まれた。戦争の後、おじいちゃんが大阪に出てきて、おばあちゃんと知り合つて親父が生まれた。親父が亡くなる前、故郷に分骨したいっていうんで、親父とお袋たちと車に乗つて分骨の場所を見に来ました。行つてみると田んぼの畦道のところにぼつんと石が置いてあって、ここですつて言われて（笑）。それが25年前です。原田 今回、PCR検査で陰性を確認してから、病院を見学して頂きました。大崎さんの目に、とくだい病院はどう映りましたか？

大崎 ぼくみたいな素人がふつと来て、お邪魔なはずなのに、いろいろと説明してくださった。皆さん温かく丁寧。わざわざぼくのために、ついでいうのではなく、それが普通、いつもこんな感じで仕事をなさっているんだろうと感じました。あまり褒めてしまうと、嘘臭くなってしまうんですけど（笑）。

原田 『吉本興業の約束』に一昨年、2019年に入院していたと書かれていました。

大崎 副腎に腫瘍ができていたんです。

ずっと手術しなければならぬと言われていたのを先送りしていた。それで手術をしたのが、丁度、昨年の騒動の時でした（笑）。ぼくは嫁を亡くしているんです。彼女はがんがいろんなところに転移して、十年ぐらい病院にいました。ぼくも病院に通って、そこから会社に行っていた時期もあります。そのときに思ったのは、お医者さんはもちろんですけれど、看護師さんたちが献身的で明るくてしっかりしている。彼女たちが「大崎さん、今日も来てるけど仕事行かんでええの」とか「吉本の（当時）社長がこんなところにいるからあかんのちゃうの」とか、何気ない一言、二言を交わすことで、気持ちがい

明るくなったこともありまし

た。人のぬくもりも医療の一つだと思

うんです。AI（人口知能）は全てを支配するって言う人がいます。医者の技術もAIにとって代わられる可能性もあるでしょう。でも、看護師が背中

に手を当てるだけで、痛みが消えることがある。その部分は絶対にAIにはできない。



地方は本当に疲弊している？

ノウハウの蓄積ってあるじゃないですか。吉本は年齢も幅広いし、アメリカ人、中国人、インドネシア人などいろんな人がいる。

原田 曖昧で多様性があるのが吉本の強みかもしれません。

大崎 少し前、吉本が芸人と契約書を結んでいないってえらく叩かれました。でも曖昧にしておいた方がいいところもあるんです。契約がないからこそ、柔軟に対応できるという面もあるんです。

原田 大崎さんの話を聞いていると、地方の人間関係と通じるところがあるような気がしてきました。地方は疲弊している、ってよく言われるんですけど、ぼくは逆に力が溜まっている、底力があるような気がしているんです。問題はそれをどう使うか、なんです。東京って、刺激的なエンターテインメントがあって楽しい。ただ今回、新型コロナウィルスで、改めて感じたのは、住む、暮らすという意味では、こっちの方がすごく楽。新型コロナウィルスで、疲弊しているのはむしろ大都市ではないかと思うようになりました。

大崎 確かにそうかもしれません。底力をどう使うかというのも同感です。地方創生っていいですけど、頑張り方が大切だと思うんです。一つの村や一つの町、



けおどけてみんなを笑わして、仕事しないのがいた。それを見た監督が、仕事していないからとクビにした。すると、チーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信じられるかどうか、人間力みたいなものが関わってくる。でも、その部分はなかなか伝わりにくい。もし、とりたい病院が、癒しの力が強いとか主張したら、何を言っているんだって話になる（笑）。大崎 そんなこと言うてるんだったら技術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんていうのは技術が足りない分を補っているんだと思っていました。でも、その部分がなかったら、本当の治療にならないのではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の良さっていうのもあるとぼくは思うんです。実は吉本って、定年なくしたんです。原田 ええっ、定年なくしたんですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言うよう

になりました。会社もそれに対応しな

ければならない。歌手とか役者ってい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。

大崎 割り切れない部分、曖昧な部分の

良さっていうのもあるとぼくは思うん

です。実は吉本って、定年なくしたん

です。原田 ええっ、定年なくしたん

ですか？

大崎 ぼくにしても、吉本辞めて、そ

ばを打つとか、カメラ提げて朝日撮ると

かっていう気になれない。3、4年前から

、邪魔しないから定年なしにできない

かって、人事に相談していたんです。だ

って世の中が人生100年時代って言う

ようになりました。会社もそれに対応

しなければならぬ。歌手とか役者とい

くおどけてみんなを笑わして、仕事し

ないのがいた。それを見た監督が、仕事

していないからとクビにした。すると、チ

ーム全体の効率がぐくんと落ちた。お笑

いって、そういう役割があると思うんです。

原田 笑いや癒しって、医療の現場でも

治療力を上げる効果があると言われてい

ます。その他、患者さんがその医者を信

じられるかどうか、人間力みたいなもの

が関わってくる。でも、その部分はな

かなか伝わりにくい。もし、とりたい

病院が、癒しの力が強いとか主張したら

、何を言っているんだって話になる（笑）。

大崎 そんなこと言うてるんだったら技

術を磨けと（笑）。

原田 ぼく自身、若い頃は、癒しなんて

いうのは技術が足りない分を補っている

んだと思っていました。でも、その部分

がなかったら、本当の治療にならないの

ではないかと。



「太陽黒点 山田風太郎 ベストコレクション」

山田 風太郎
KADOKAWA / 角川文庫

放射線部に所属する坂本洋輔技師が山田風太郎のミステリー小説『太陽黒点』に出会ったのは、岡山大学医学部保健学科放射線技術科学専攻に通う大学2年生の頃だった。大学に入って間もなく見たアニメ『バジリスク〜甲賀忍法帖〜』。その原作が1950年代に書かれた山田風太郎の『甲賀忍法帖』であることを知り、すぐに読んでみたという。そして、斬新な世界観が約40年以上も前に書かれたものであることに驚いた。

「今の時代に書いたと言われても不思議じゃないくらい、10代の僕にとって、新鮮で面白い作品だった」
たまたま、2010年に山田風太郎賞が創設され、絶版となっていた作品が続々復刊される時期だった。「月ごとにどんどん復刊されていたのでとにかく全部読んでいった。そのなかの一冊がこの『太陽黒点』です」

『太陽黒点』は、日本が戦後復興を果たし、高度成長期を迎えた昭和30年代の東京が舞台のミステリー小説だ。「死刑執行・一年前」からカウントダウンされる不穏な章題とは裏腹に、若者の恋愛や堕落が延々と描かれていく。しかし、冒頭からはまったく想像できない苛烈なまでの衝撃的な展開が終盤に待ち受けている。「もはや戦後ではない」と謳われ繁栄を享受する時代。山田風太郎は戦争で命を落とした同世代の人たちへの鎮魂歌としてこの物語を書いた。平成生まれの坂本技師にとって戦争は遠い昔の話で、現実味はない。それでも、戦争を経験した登場人物の虚しさや怒りは痛いほど胸に響いた。〈天下泰平、家庭の幸福、それだけじゃつまらないといやがった。ふざけるな、それがあるだけで、無上の幸福というものではないか?〉という一文は事あるごとに思い返すという。

「よくある戦争の物語だったら、こういう言葉も感動するだけで終わる。でも、ミステリー小説として見せられたことで、自分自身に突き刺さるかたちで残った」
放射線技師としてとりだい病院に就職して間もなく、父親が病気に

なった。父親は定年退職し、これからはのんびりするのだろうと思っていた矢先だった。結局、父親は亡くなった。思っていたものとは違うかたちで終わった父親の人生、そして働き始めて悩みも多かった自分自身の心境が『太陽黒点』と重なった。「自分もいつどういうかたちで終わるかわからない。それならなるべく後悔しない生き方をしたいと思うようになりました」
坂本技師は少し笑みを浮かべながら、ゆっくり言った。
忙しい仕事の合間を縫って小説は読み続けている。ミステリーが中心だが、最近は古典作品や海外のSF小説もお気に入りだ。読書に何を求めているのかと訊ねると「考え方が感情とか、人それぞれだということが学べる。自分の思考を固まらせないために」と答えた。

文・西海美香 写真・中村治

カニジルご意見箱

通称

カニジル



Q コロナ禍のなか予定通り発行してくれたことに感激しました。取材、撮影、編集作業は大変ではなかったですか? (Y.Y)

A コロナウイルス感染症が拡大した今年の春、カニジルは4杯目の校了を控えていました。さすがに都市圏からの来院は許されず、この時ばかりはオンライン。7月にスタートする5杯目をさてどうするか…。「多くの人が不安を抱えている時、何もかもが一変してしまった時だからこそ、病院の広報誌として発信していく使命があるはず!」そんな大仰な思いがあったかどうかは別として、誰からも発行延期という言葉は出ません。編集メンバーはPCR検査を受け、6時間ほど待機して陰性の結果が出てから院内での打合せや取材に臨みました。連載『たすくのタスク』は延期→中止となりましたが(今号の大崎洋会長でした)、特集企画ページ数を増やすことでカニジル5杯目は予定通り発行! 突然増えた原稿枚数に幾度悲鳴を上げたかは、推して知るべし…。withコロナに少し慣れたことあり、6杯目は通常構成に戻っています。(西海)

カニジルへのご意見・ご感想を募集中!



www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/kanijiru/e/

とりだい病院ホームページからもアクセスできます。
トップ > 病院のご紹介 > 当院の広報物 > 読者アンケート回答フォーム

抽選で
カニジル
ステッカー
プレゼント!



※ステッカーの種類は選べません。

とりだい病院広報がスラスラ回答

大学病院の謎



内科や外科に第一、第二と ついているのはなぜ?

起源については諸説ある

内科や外科に番号がついているのは大学病院だけではなく、総合病院でも見かけることがある。いわゆる「ナンバー診療科」である。

当院の先生方や事務職員に聞いてみたところ「日本の医学はすべてドイツからきたもの。だからこの事もしかり」とか、「東大をマネしたのでは」とか、「大学院の設置基準で必要だったから」など、バラバラな答えが返ってきた。どれもそれなりに当たっていると思われる…。

もともと内科学や外科学は、多くの領域に別れている。一人の教授がすべての領域の診療、そして教育を受け持つことは実質的に不可能だった。そこでもう一人の教授が配置されたり、細分化されたりして一や二、三という「ナンバー」が付されることになったのだ。

ただし、教授の専門分野が違っているとはいえ、内科・外科一般を扱っているのはどちらも同じ。そのため、例えば「第一内科」や「第二内科」の診療内容に重複があったという。

第一、第二は「学閥」の産物?

取材をしていくうちに、第一と第二の違いは、教授の専門分野だけでなく、「学閥」が少なからず関係していたことが分かった。日本全国の医学部の礎はいわゆる七旧帝大。それ以外の大学は、旧帝大より教授を招聘していた。だから第一と第二の教授は「系統」が違いうこともあった。特に外科では、手技、手法にそれぞれの流派があり、門外不出だったという。同じ大学病院内でも第一と第二はライバル同士。お互いが切磋琢磨していたとも言えるが、同じ病気の患者さんは、かかっ

たナンバー診療科によって違う治療を受けていた。かかりつけ医や関連病院の医師が、第一外科の所属またはOBであれば第一外科に、第二外科ならば第二外科に紹介することがあったようだ。

とりだい病院が目指すのは
「患者さんファースト」

このようなナンバー診療科のヒエラルキーや壁は、患者本位でないことや、それぞれが別々の器械や部屋を使うなど病院運営上、非効率であることが問題となってきた。そこで大学病院の在り方について検討がなされ、診療科再編が起き、現在の臓器・疾患別の診療体制に変わったのである。

当院でも旧第一内科や旧第一外科と表示に名残はあるものの、旧第一、二、三内科は循環器・内分泌代謝内科、消化器・腎臓内科、呼吸器・膠原病内科に、旧第一、二外科は消化器・小児外科、心臓血管外科、呼吸器・乳腺内分分泌外科と臓器・疾患別に分かれ、患者さんは病気の種類によって、その該当科に紹介され治療が行なわれている。

ただ、ナンバー診療科にも利点はあった。一つの診療科が多くの専門分野を有していたので、異なる病気を併発している患者さんの場合、科内で気軽に相談することができたのだ。臓器・疾患別となった現在では、横のつながり、すなわち診療科間の連携がとても重要となる。とりだい病院は、内科同士はもちろん、内外科科でも垣根なく、チームでの診療を目指している。

ナンバー診療科こそ、白い巨塔の象徴だったとは：とりだい病院広報も初めて知った事実であった。(中原)

この連載では皆さまからの質問を受け付けています。

大学病院、とりだい病院について疑問・質問のある方はとりだい病院 広報・企画戦略センターまでお送りください。

疑問・質問はコチラ!

e-mail byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp

『言葉の力』——カニジルラジオ、始めました。

東京の私立大学病院で働く友人の医師がこんな事を口にした。

「患者さんとの向き合いが、流れ作業のようになってしまふ。本当はちゃんと向き合いたい」が忙しさで余裕が無い。これでは絶対いけない」彼によれば新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、日々の診察に加えコロナへの危機管理や感染対策、不安相談など、それまで全くなかった仕事がいくつも増えたという。そのうえ、リモートワークでの会議やステイホームでストレスも蓄積。患者さんたちとの向き合い方も「これまでの対応や説明で本当にいいのか」と自問自答を続け、言いようのない違和感を覚えていると語った。普段は仕事への誇りと医療を熱く語り、率先して現場に駆けつける熱血漢である友の肩の落ち方に同情を禁じ得なかった。

Tottori Breath

コロナ禍の中、人との関わりや仕事、出会いや別れ、今までの日常が形を変えてしまった。経済や観光、教育、医療などの社会インフラだけでなく、毎日のマスク装着や出口の見えない現状が、知らず知らずに大きなストレスとしてのしかかる。

そんな時代だからこそ「言葉の力」や「語りかけ」の大切さを痛感する。

特に医療の現場で「語りかけ」は重要だ。治療の経過を丁寧に説明するための語りかけ

や、患者さんへの声かけと説明。思いやりのある会話。そんな医師・看護師と患者さんの会話から、病状や体の異変を知るシグナルを手に入れることもある。優しい言葉や語りかけは、気持ちをリラックスさせ病状を好転させ互いの信頼関係を築く。患者の気持ちに寄り添い理解を深めることによってこそ、安心できる医療を実現できるのではないかと。

ラジオは、生の声に飢えている人の味方

本誌「カニジル」は「言葉の力」と「語りかけ」の力に着目し、山陰放送で「カニジルラジオ」という新しいラジオ番組をスタートした。

先日、私の大切な師匠の一人で伝説のラジオ番組「バックインミュージック」(TBSラジオ・1967年〜82年まで放送された深夜放送番組)でパーソナリティを務めた榊井論平さんとラジオの力について話をしてきた。名司会者の生島ヒロシさんや久米宏さんを育てた人物だ。

「ラジオはパーソナルメディア。時代を映す風俗的面も持つ。わざわざ早く寝て深夜ラジオを聴く若者が、ラジオのスイッチを入れて深夜放送ブームが生まれた。茶の間からテレビに締め出されたラジオと、若者が結びついた。ラジオはリラクセスして何でもしやべれ

る。生の声に飢えている人の味方。古いメディアが一周回って一番新しいのかも」そうラジオの「語る力」を説く。

カニジルラジオには、論平さんら大先輩のラジオ魂も流れる。もちろん、本誌・田崎健太編集長の熱い思い入れと意気込みが番組のエンジンであることは言うまでもない。

とりだい病院の医師や看護師、ゲストの意外な経験や医療への思いを田崎さんの軽妙洒脱なインタビューが切っていく。分かりにくい医療情報が、まるで、みんなが食べやすい大きさの美味しいパンのようにリスナーに届く。担当する木野村尚子アナウンサーは地元鳥根県出身。毎週土曜日の昼12時25分〜55分放送。公式YouTube とradioでも配信。本誌「カニジル」とともに、田崎さんの豊富な引きだしと多彩なゲスト、医療の話是非ラジオでも聞いていただきたい。大切な「言葉の力」とともに。



結城 豊弘

読売テレビ放送株式会社
報道局兼制作局 チーフプロデューサー

1962年鳥取県境港市生まれ。読売テレビ報道局兼制作局チーフプロデューサー。「そこまで言って委員会NP」「ウェークアップ!ぶらす」等の取材・番組制作を担当。とりだい病院特別顧問と本誌スーパーバイザーを務める。鳥取県アドバイザースタッフ。境港市観光協会会長。



結城さんの『Tottori Breath』で

も触れているように、10月から山陰放送で『カニジルラジオ』(毎週土曜日、昼12時25分)が始まりました。

古くは旧知のテリイ伊藤さんがパーソナリティを務めるニッポン放送の昼間の帯番組にほぼ毎週出演、『真説・長州力』発売に合わせて長州さんとオールナイトニッポンをやったり——今も月一回、プロゴルフファターのタケ小山さんの『グリーンジャケット』(InterFM)で喋っていますが、メインを務めるのは初めて。一出演者として気楽に話すのとは違った難しさを感じています。

少年時代から青年時代の始めまで、ぼくのそばにはいつもラジオがありました。島田紳助さん、ツボイノリオさん、越前屋俵太さんたちの『ハ

イヤング京都』(KBS京都)、明石家さんまさんの『ヤングタウン』(毎日放送)、成毛滋さんの『バーブルエクスプレス』(文化放送)、坂本龍一さんの『サウンドストリート』(NHK) などなど——。

耳を澄まして聞くラジオだからこそ、言葉を深く噛みしめられたような気がします。

カニジルラジオは、とりだい病院の方々を中心にゲストを迎えて話を聞く番組です。台本はなく、結城さん、木野村尚子アナウンサーとジャズの即興演奏のように会話を展開。ジャズミュージシャンが観客によって化学反応を起こすように、リスナーの反応は刺激となります。一緒にいい番組にしましょう。

編集長 田崎健太

編集 三宅玲子

米子に向かう朝、羽田空港で。伊丹空港への着陸が羽田へ引き返す可能性があると聞き、多めの移動時間を含んで珍しく朝食を胃袋に収めたのですが。無事に着陸し校了を終えた翌朝。鳥取経由で戻る私に、鳥取で待つ書店主から帰京手段を心配するメールが。雪ですが、ぼかぼかします。さて、飛行機は飛ぶでしょうか。

写真 中村 治

今号のフォトルポルタージュでは、文章も書かせてもらいました。取材を通して、改めて『的確な質問をすることの難しさ』を知りました。聞き手がしっかりとしたビジョンを持って質問しないと、話し手から聞くべき答えを引き出せない。その辺は良い写真を撮ることに通じるので、質問力を付けるために、普段の会話から意識していこうと思いました。

編集 大川真紀

対談の撮影で、久しぶりに病院近くの商店街を歩きました。いつも通り人通りは少なく、静かなシャッター街。しかし県外の方からは、米子の街並みは「昭和」を感じるレトロな雰囲気がいと褒めていただくことも多く、なるほどそうなのかと思う。「カニジル」の取材を通じて、違った視点で地域を知る機会が増え、新しく気づかされることも多くなってきました。

編集 西海美香

取材が好きだ。自分が日々働く職場といえど医療という専門分野のなか、知らないこと、わからないことが多すぎる。医師をはじめ多くの職員の話を聞いて、どれだけのウロコが私の目から落ちただろう。これを伝えなければ意味がない…んだよね。

編集 中原 由依子

「謎」取材では鳥大医学部周年史を「地域医療」取材では大山町誌を読みました。どちらにも医療を望む学生や地域住民のために奮闘した先人の軌跡が記されていました。この「カニジル」も今の医療を映す一冊として後世に名が残ったりして…フッフ

表紙デザイン 三村 漢

いつもはあっという間の「もう12月かぁ〜」ですが、昨年は時間が揺らいでとても長く感じました。その中、編集チームは調和がとれだし、次の段階に進もうとしております。改めて、型は持ちつつその型にははまらない無二な一冊を目指したいです。

ページデザイン 矢倉 麻祐子

6杯目の見どころは中村さんのフォトルポ! (個人的に。) 優しくて暖かい写真と言葉の素敵なページができました。カニジルではレアな文章量少なめ特集ですが、写真が多くを語っています。ぜひぜひ、じっくりご覧ください。

〈 飛鳥の森とは 〉

鳥取大学医学部キャンパス内にある、学生や患者さんが集う憩いの場。「飛鳥(ひちょう)」という言葉には、鳥取大学の一層の飛躍を願う気持ちが込められている。



〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地一
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター内「カニジル」編集部
TEL 0859-38-7039 / FAX 0859-38-6992
MAIL byuin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp



フォトグラファー 中村 治が切り取る
とりだい病院の日常

トリセイト

中村 治

1971年広島生まれ。成蹊大学文学部を卒業後、中国・北京に2年間留学。ロイター通信社北京支局の現地通信員としてキャリアをスタート。ポートレート撮影の第一人者である坂田栄一郎氏に師事。2006年に独立、現在は雑誌広告等のポートレート撮影を中心に活動している。中国福建省の山間部に点在する客家土楼とそこに暮らす人々を撮影した写真集『HOME』（リトルマンブックス）が好評発売中。2020年「さがみはら写真新人奨励賞」受賞。

check!

とりだい情報
日々発信中!



www.facebook.com/ToridaiHospital/



@ToridaiHospital

